

11月食育だより

令和6年度
御船町
学校給食センター

11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

11月は秋の实りが出そろう月です。食べられることは当たり前のことではなく、自然の恵みはもちろん、生産者の方や運搬する方、料理を作る方など、多くの方々の働きがあって成り立っています。感謝の気持ちを忘れずに食べたいですね。

さて、今月の給食だよりでは、勤労感謝の日にちなみ、食事のあいさつと、地産地消についてお伝えします。

「いただきます」「ごちそうさま」の意味を知ろう

食事をする前の「いただきます」と食事が終わった後の「ごちそうさま」というあいさつには、一体、どんな意味があるのでしょうか？

大切なものを「頂く」「戴く」



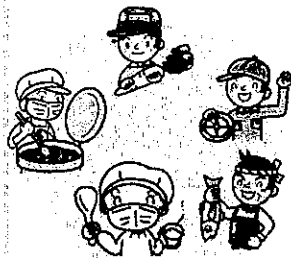
「いただきます」「いただく」は、「食べる」や「もらう」の丁寧な言い方です。漢字では「頂く」「戴く」と書きます。音の人は何か大切なものをもらったときに、感謝の気持ちを表すために、もらったものを頭の上のせるしさをよくしました。「いただく」はこのことから生まれた言葉だと考えられています。

「命」をいただく



私たちがいただく食べ物はすべてもとをたどれば生き物です。食べ物となる動物や植物にも大切な命があります。「いただきます」というあいさつには、食事ができることへの感謝の気持ちと同時に、食べ物となつたすべての命に「ありがとう、感謝していただきます」と言う言葉でもあるのです。

人々の働きに「ごちそうさま」



「ごちそうさま」を漢字で書くと「御馳走様」となります。「馳走」には「かけまわる」という意味があります。「ごちそうさま」というあいさつには汗を流して食べ物を集め、まるでかけまわるようにして食事の用意をしてくださった人たちのご苦労をねぎらい、感謝する気持ちが込められています。

給食を通して地産地消の良さを知ろう!

地産地消とは、地域で生産された農林水産物を、その地域で消費する取り組みです。

学校給食では、地域でとれた「地場産物」を活用することで、地域の産業や食文化への理解を深め、地域への愛着を育むとともに、環境問題や食料自給率といった課題について目を向ける機会にしたいと考えています。

地産地消の良さとは？

<p>新鮮な旬の味覚を味わうことができる</p>	<p>作っている人の顔がわかり、安心感が得られる</p>	<p>地域内で資金が還元され、地域経済の活性化につながる</p>
<p>農業が活性化することで農地が保全され、景観の維持や洪水の防止につながる</p>	<p>運ぶ距離が短くなり、エネルギーやCO2排出量が削減でき、環境に優しい</p>	<p>SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献できる</p>

学校給食に地場産物を活用する効果

地域の産業や食文化への理解を深めることができる
食料の生産、流通に関わる方々に対する感謝の気持ちを育むことができる
学校と地域との連携・協力関係を構築することができる



御船町の学校給食で使用する熊本県の地場産物

